

科目名	病態・薬物治療学3			ナンバリング	PHA472	授業形態	講義
対象学年	4	開講時期	前期	科目分類	必修	単位数	2 単位
代表教員	林正彦	担当教員	林正彦○、村田和子、佐藤龍昌○、福地祐司○、平藤雅彦				

授業の概要	剤師として適切な薬物治療に参画できるようになるために、疾患に関する知識を修得する事を目的とする。とくに薬物治療については、症例を読み、処方解析や投与計画、薬物の作用機序、効力、作用時間、副作用や相乗効果等に関する基本的な知識を修得する事を目的とする。 主要な腎・泌尿器疾患、感覚器疾患、生殖器疾患、血液・造血器疾患の病態生理、症状、診断、治療ならびに悪性腫瘍の薬物療法、緩和ケアと長期療養、移植医療について解説する。						
到達目標	1 腎・泌尿器疾患(糸球体腎炎、腎不全、尿路感染症前立腺障害)の病態生理、診断、薬物治療について説明できる。 2 感覚器疾患の病態生理、症状、診断、治療について説明できる。 3 生殖器疾患の病態生理、症状、診断、治療について説明できる。 4 血液・造血器疾患の病態生理、症状、診断、治療について説明できる。 5 悪性腫瘍の薬物療法、緩和ケアと長期療養、移植医療に関して説明できる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	1 講義内では教科書の内容補足として、プリントを配布する。講義内容のまとめ方の参考にすること。 2 講義内容を復習できるよう演習問題を添付する。演習問題は、講義や自習で学習したことがどのような形で問われるか、どのように考えたらいいか、という問題解決力を養うためのものであるから、必ず自分で解答すること。						
ディプロマポリシーとの関連	【薬学部薬学科のディプロマポリシー】						
		1. 薬剤師の社会的義務を認識し、医療の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を具現できる。					
	○	2. 医療分野における問題点を発見して解決するために、研究マインドと知識を統合・活用する力を有する。					
		3. 患者本位の医療を実施するために、チーム医療における円滑なコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 地域の医療および保健に貢献するために、薬剤師としての実践的能力を有する。					
	○	5. 薬剤師として科学と医療の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的学習ができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1 腎・泌尿器疾患の病態生理、症状、診断、医薬品選択について説明できる。 2 感覚器疾患の病態生理、症状、診断、医薬品選択について説明できる。 3 生殖器疾患の病態生理、症状、診断、医薬品選択について説明できる。 4 血液・造血器疾患の病態生理、症状、診断、医薬品選択について説明できる。 5 悪性腫瘍の薬物療法、緩和ケアと長期療養、移植医療に関して説明できる。	1 腎・泌尿器疾患の病態生理、症状、診断、薬物治療(医薬品選択と薬物相互作用)について説明できる。 2 感覚器疾患の病態生理、症状、診断、薬物治療(医薬品選択と薬物相互作用)について説明できる。 3 生殖器疾患の病態生理、症状、診断、薬物治療(医薬品選択と薬物相互作用)について説明できる。 4 血液・造血器疾患の病態生理、症状、診断、薬物治療(医薬品選択と薬物相互作用)について説明できる。 5 悪性腫瘍の薬物療法、緩和ケアと長期療養、移植医療、薬物治療(医薬品選択と薬物相互作用)に関して説明できる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)	○	○	○				90%
小テスト・授業内レポート	○	○	○				10%
宿題・授業外レポート	○	○					加点はしない。提出しなければ減点。
授業態度・授業への参加							

課題、評価のフィードバック	講義中もしくは講義前に、前回講義内容に関する小テストを行う。テスト結果は採点・解説し、学習支援システムmanabにて開示する。解答用紙は、要請があればいつでも開示する。
---------------	--

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	腎・泌尿器疾患の検査方法	代表的な腎疾患、泌尿器疾患の症状や概要を示すと共に、診断方法について解説する。 講義で使用する資料やプリントは「学修支援システム」に保存しているので持参すること。	SBO:E2-(3)-③-1,2 (担当:佐藤)
	第2回	糸球体疾患の薬物治療	各種球体腎炎やネフローゼ症候群の症例を用いて、腎炎の特性に適した治療薬を解説する。	SBO:E2-(3)-③-1,2 (担当:林)
	第3回	腎不全・薬物性腎障害	急性及び慢性腎不全、薬剤性腎障害の病態の概要を示し、検査マーカー等を用いた診断方法について解説する。	SBO:E2-(3)-③-5 (担当:佐藤)
	第4回	急性及び慢性腎不全の薬物治療	急性及び慢性腎不全の症例を用いて、適した治療薬を選択し、薬物相互作用についても解説する。	SBO:E2-(3)-③-4,5 (担当:林)
	第5回	尿路感染症、尿路結石、腎・泌尿器腫瘍の病態生理、診断、治療	尿路感染、尿路結石さらに泌尿器腫瘍の病態と症状、診断方法について解説する。	SBO:E2-(3)-③-5 (担当:佐藤)
	第6回	前立腺、婦人科疾患の病態生理、診断、治療	前立腺疾患や代表的な婦人科疾患の病態や症状、診断方法について説明すると共に、治療についても解説する。	SBO:E2-(3)-③-7,8 (担当:佐藤)
	第7回	前立腺疾患、男性生殖器障害の薬物治療	前立腺がん、頻尿、勃起障害の症例を用いて適切な治療薬の選択ならびに薬物相互作用についても解説する。	SBO:E2-(3)-③-7,8 (担当:林)
	第8回	乳腺疾患の病態生理、診断、治療	代表的な乳腺疾患の病態や症状、診断方法を説明すると共に、治療方法についても解説を加える。	SBO:E2-(7)-⑧-13 (担当:佐藤)
	第9回	感覚器(耳鼻咽喉、眼、皮膚)疾患の病態生理、診断、治療	めまい(動揺病、メニエール病など)、副鼻腔炎、扁桃腺炎、喉頭炎等について、病態や診断方法、医薬品選択について説明できる。	SBO:E2-(6)-②-1,2 (担当:佐藤)
	第10回	眼科疾患の薬物療法	緑内障、白内障、加齢黄斑変性症、結膜炎等について、症例を用いて症状や検査結果より適切な医薬品を選択すると共に相互作用についても説明できる。	SBO:E2-(6)-①-1～4、 SBO:E2-(6)-③-1～4、 (担当:林)
	第11回	皮膚疾患の薬物療法	アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、褥瘡、尋常性乾癬、光線過敏症等について、症例を用いて症状や検査結果より適切な医薬品を選択すると共に相互作用についても説明できる。	SBO:E2-(6)-①-1～4、 SBO:E2-(6)-③-1～4、 (担当:林)
	第12回	耳鼻咽喉疾患の薬物療法	動揺病、メニエール病、アレルギー性鼻炎、扁桃腺炎等について、症例を用いて症状や検査結果より適切な医薬品を選択すると共に相互作用についても説明できる。	SBO:E2-(6)-①-1～4、 SBO:E2-(6)-③-1～4、 (担当:林)
	第13回	まとめ演習	第1回から第12回までの講義内容に対する理解度の確認試験を行う。	
	第14回	貧血の病態生理、診断	鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、再生不良性貧血、腎性貧血、鉄芽球性貧血等の病態、を説明できる。	SBO:E2-(3)-②-1,2,3 (担当:佐藤)
	第15回	貧血の薬物治療	鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、再生不良性貧血、腎性貧血、鉄芽球性貧血等について医薬品選択および臨床適用を説明できる。	SBO:E2-(3)-②-1,2,3 (担当:平藤)
	試験			

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第16回	凝固系疾患の病態生理、診断	播種性血管内凝固症候群、血栓性血小板減少性紫斑病、血栓塞栓症、血友病等の病態、医薬品選択および臨床適用を説明できる。	SBO:E2-(3)-②-1,2,4,5 (担当:平藤)
	第17回	凝固系疾患の病態生理、診断	播種性血管内凝固症候群、血栓性血小板減少性紫斑病、血栓塞栓症、血友病に対する医薬品選択および臨床適用を説明できる。	SBO:E2-(3)-②-1,2,4,5 (担当:福地)
	第18回	まとめ演習	第14回から第17回までの講義内容に対する理解度の確認試験を行う。	
	第19回	造血器腫瘍の病態生理、診断	急性(慢性)骨髄性白血病、急性(慢性)リンパ性白血病、成人T細胞白血病、多発性骨髄腫について、病態生理や診断を説明できる。	SBO:E2-(7)-⑧-5 (担当:平藤)
	第20回	造血器腫瘍の薬物治療	急性(慢性)骨髄性白血病、急性(慢性)リンパ性白血病、成人T細胞白血病、多発性骨髄腫について、病態・医薬品の選択などを説明できる。	SBO:E2-(7)-⑧-5,6 (担当:平藤)
	第21回	悪性腫瘍の病態生理、診断、治療	腫瘍の定義、組織型分類、病期分類、検査(細胞診、画像診断、腫瘍マーカー(がん遺伝子)、悪性腫瘍薬の薬理作用及び臨床適用、耐性獲得機構、さらに副作用と軽減するための対処法を説明できる。	SBO:E2-(7)-⑧-1,2,3 (担当:福地)
	第22回	悪性腫瘍の薬物治療①	代表的ながん化学療法レジメンについて、構成薬物及びその役割、副作用、対象疾患を概説できる。	SBO:E2-(7)-⑧-4 (担当:福地)
	第23回	悪性腫瘍の薬物治療②	骨肉腫、胃がん、食道がん、肝がん、大腸がん、胆がん・胆管がん、膵がん、脳腫瘍、咽頭がん、口腔がんについて、病態・医薬品の選択などを説明できる。	SBO:E2-(7)-⑧-7,8,10 (担当:福地)
	第24回	悪性腫瘍の薬物治療③	前立腺がん、子宮がん、卵巣がん、腎がん、膀胱がん、乳がんについて、病態・医薬品の選択などを説明できる。	SBO:E2-(7)-⑧-11,12,13 (担当:福地)
	第25回	緩和ケアと長期療養	がん終末期の病態と治療、がん性疼痛の病態と薬物治療を説明できる。	SBO:E2-(7)-⑨-1,2 SBO:E2-(7)-⑩-1 (担当:佐藤)
	第26回			
	第27回			
	第28回			
	第29回			
	第30回			
	試験	試験は、病態と薬物致傷に分かれて実施する。それぞれ講義毎の小テスト、まとめ演習、期末試験を実施する。小テストは10%、まとめ演習(20%)、期末試験は70%ととして評価する。期末試験は全範囲を対象に実施する。配布している演習問題ならびに講義プリントを参照すること。60点未満の不合格者は、再度復習して再試験に備えること。再試験は全範囲を対象とし、それ以後の試験は実施しない。		
授業の進め方		講義とそれに対する質疑応答とする。講義では教科書の内容補足として、プリントを配布するので講義内容のまとめ方の参考にすること。講義内容の復習のため演習問題を添付する。講義で使用する資料やプリントは「学修支援システム」に保存しているので講義時に持参すること。		
授業外学習の指示		講義を聴いただけで理解したつもりにならないこと。配付資料、特に治療薬マップや作用機序は、配付資料を見ないで書けるようになること。添付している演習問題をその日のうちに解くこと。出来なかったところはその日のうちに調べる。継続して学習することが重要であり、見ただけで理解したつもりになら無いように。 (授業外学習時間: 毎週 120 分)		

教科書	①「疾病と病態生理」豊島 聡監修、南江堂、6,000円、ISBN 978-4-524-40274-8 ②「薬物治療学」第4版 吉尾 隆他編集、南山堂、8,800円、ISBN 978-4-525-72051-3
参考書	講義で使用するプリント・資料は、「manab@」からPDFファイルとしてアップロードしている。 「新臨床内科学」高久史彦監修、医学書院、22,000円、ISBN 978-4-260-00305-6 「薬物治療学」平井みどり、三木知博編、化学同人、6,500円、ISBN 978-4-759-81269-5
参考URLなど	
その他	講義内容を復習できるよう演習問題を添付する。演習問題は、講義や自習で学習したことがどのような形で問われるか、どのように考えたらよいか、という問題解決力を養うためのものであるから、必ず自分で調べ解答すること。 5. 基礎的な科学力、8. 研究能力 アドバンス5%、大学独自10%